



キラキラきらめく ②6

銘形 一哉さん

めいがた かずや 成羽町吹屋

長野県松本市で生まれ育ち、大学進学とともに東京へ。20歳を過ぎた頃から人生を模索し始めた一哉さんは、1年間の海外留学などを経て、4年前に高梁市へやってきました。

地域の行事に欠かさず参加し、高齢者の生活支援などの活動を続け、付いたあだ名は「スーパーマンがっちゃん」。令和2年には、古くからまちの人たちに親しまれてきた「吹屋食堂」の経営を引き継ぎ、二代目店主として営業を開始しました。

「まちの人たちが喜んでくれると僕も嬉しい。この美しいまちでずっと楽しく生きていけるように、できることをしていきたい」と話し、にっこりと笑いました。



「ジャパンレッド」発祥の地—弁柄と銅の町・備中吹屋— ⑬

日本遺産に認定された『「ジャパンレッド」発祥の地—弁柄と銅の町・備中吹屋—』のストーリーを構成する文化財を紹介します。

「水分神社(山神社)」 未指定有形文化財(建造物)

水分神社は、吉岡銅山に隣接した北方銅山(成羽町吹屋の北方地区)で祀られていた銅山の守護神です。享和2(1802)年に吉岡銅山師の大塚理右衛門が津山藩へ提出した「吉岡・北方銅山絵図」(津山郷土博物館蔵)には、吉岡銅山の「山神宮」(吹屋千枚地区)とともに、北方に「山神宮」が記載されています。

創建年代は不明ですが、地元の伝承によると、大坂の泉屋(後の住友)が延宝8(1681)年に北方銅山の経営に着手した際、坑道内の湧き水に悩まされ、湧き水が少なくなるように当社を建てたといわれ、このことから水分と称されたと考えられます。北方銅山の閉山に伴い、大正3(1914)年に高草八幡神社の境内に遷座されました。



現在の水分神社は高草八幡神社内に。



中央上部に「北方山神宮」。「吉岡銅山役所」は、旧吹屋小学校の敷地。



問高梁市日本遺産推進協議会事務局(日本遺産・歴まち推進室) ☎ 21-0257